

カンキツ新品種「あすみ」「あすき」の品種特性

果樹試験場 栽培部 研究員 直川 幸生

【要約】

「あすみ」は高糖度・良食味で浮皮の発生がほとんどなく、2月上旬に成熟する施設栽培向きの品種である。また、「あすき」は高糖度・良食味で浮皮の発生がなく、3月下旬以降に成熟する品種である。

【背景・ねらい】

「あすみ」と「あすき」はともに国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構で育成された品種である。どちらも「スイートスプリング」と「トロビタオレンジ」の交雑個体に「はるみ」を交配した兄弟品種であり、高糖度で食味が優れることから産地への導入が期待されている。しかし、育成地（静岡県・興津）と異なる栽培条件での生育特性や果実品質については不明な点も多い。そこで、適地への導入を推進するため、継続的な栽培試験により、本県における生育や品質の特性を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

- 1) 「あすみ」の果実は果実重が 190～200g 程度、果形は扁球形、果皮色は橙色である。成熟期は 2 月上旬頃であるが、露地では完全着色しない果実がみられた。果汁中の糖度は 15 度以上と極めて高く、クエン酸含有率は 1.2%前後であった。また、浮皮の発生はほとんどみられなかった（表 1）。「あすみ」はかいよう病に弱いこと、露地で裂果が多発する可能性があること、無加温ハウスで着色が良好であることから施設栽培向きの品種である。
- 2) 「あすき」の果実は果実重が 200～220g 程度、果形は扁球形、果皮色は橙色であり「あすみ」に似る。着色は良好であり、3 月上旬の調査では露地でわずかに緑斑が残った年度もあったものの完全着色した。果汁中の糖度は露地で 16 度、無加温ハウスで 17 度以上と極めて高かった。一方で、クエン酸含有率は 1.6%程度であり、成熟期は 3 月下旬以降と考えられる。また、浮皮の発生はみられなかった（表 1）。かいよう病の発生程度は「あすみ」より少なく露地栽培も可能であるが、抵抗性ではないので慣行防除が必要である。

表 1. 「あすみ」と「あすき」の果実品質

品種	調査日	横径 (mm)	縦径 (mm)	果形指数	果実重 (g)	果肉歩合 (%)	糖度 (Brix)	クエン酸 (%)	着色 (0-10)	浮皮 (0-3)	
あすみ	露地	2月5日	75.0	59.9	125.5	188.3	84.1	15.8	1.19	9.5	0.0
	無加温ハウス	2月5日	77.1	62.4	123.9	201.4	84.6	15.8	1.23	10.0	0.1
あすき	露地	3月5日	78.2	62.9	124.5	198.0	81.3	16.4	1.61	9.9	0.0
	無加温ハウス	3月5日	79.5	70.0	114.2	221.3	80.9	17.4	1.65	10.0	0.0

※数値は5年間（2017～2021年度）の平均値。あすみ（露地）は4年間（2018年度を除く）の平均値。

浮皮：触感により無(0)～基(3)の4段階で調査した平均値。